

授業科目名	①		
実務経験講師	②	実務経験	③
開講年度	④ 年度	学 期	⑥
年 次	⑤ 年次	授業回数	⑦ 回
単 位 数	単位	単位時間数	時間
授業科目の概要	⑧		
授業科目の到達目標	⑨		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6	⑩		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑪
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 実務経験講師

講師に担当する科目に関係する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

③実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

④開講年度

⑤年次

授業を受ける学年です。

⑥学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑦授業回数

⑧授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑨授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達すべき学修の目標です。

⑩授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑪使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

授業科目名	公衆衛生学		
実務経験講師	○	実務経験	保健師
開講年度	2023 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	(1)我が国の公衆衛生の現状と課題について理解する。 (2)これからの公衆衛生のあり方について学ぶ。		
授業科目の到達目標	(1)個人の健康と社会の健康について理解することができる。 (2)衛生統計の情報が理解できる。 (3)公衆衛生活動における理学療法士・作業療法士の役割を考えることができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	公衆衛生とは	講義・GW	
2	公衆衛生の歴史	講義	
3	健康の概念(プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション)	講義・GW	
4	健康の指標(保健統計から見えてくる健康)	講義・GW	
5	疫学的アプローチ	講義・GW	
6	集団の健康被害と疫学	講義	課題(4 週間後に提出)
7	環境と健康	講義	
8	感染症対策・食品衛生と栄養	講義	
9	医療保険制度	講義	
10	ライフサイクルと地域保健活動	講義・GW	
11	母子保健・学校保健	講義	
12	生活習慣病対策・老人保健	講義	
13	精神保健・難病対策	講義	
14	今後の地域保健活動とリハ職	講義・GW	
15	定期試験	試験	

GW:グループワーク

使用テキスト	「わかりやすい公衆衛生学」第 4 版 清水忠彦、佐藤拓代 編集 ニューヴェルヒロカワ
参考書・資料 等	国民衛生の動向 新聞等マスメディアのニュース記事
この授業科目の前提となる主な科目	リハビリテーション概論
この授業科目から発展する主な科目	健康科学、地域保健福祉論(PT)・地域作業療法学Ⅱ(OT)
成績評価の方法	定期試験、ミニレポート、出席状況
その他 受講生への要望等	講座を通して、Public Health とは何か、その中で理学療法士や作業療法士としての活動や、求められる社会的役割について、皆さんとともに考えてみたいと思っています。 国内外での身近な話題の中から、公衆衛生の原点に触れることができるよう、また、専門外の講座ではありますが、心の片隅に残る時間のひとつになるよう、努めて参ります。

授業科目名	運動学Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	人の動作の連続性である「生活」を支援する作業療法に必要な知識として、Ⅰ年次に習得した身体の基礎知識(形態や構造など)を元に、人の基本的動作能力に対して科学的・学問的な理解を深める。		
授業科目の到達目標	☐ 姿勢保持に必要な機能を理解できる ☐ 基本的な姿勢と動作の種類とその特徴について説明できる ☐ 姿勢と動作観察・分析に必要な要素を専門用語を使って説明できる ☐ 歩行分析に必要な歩行周期を説明できる(歩行周期2種類) ☐ 一般的な異常歩行の種類について説明できる ☐ 動作時の関節モーメントについて理解できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	【バイオメカニクスの基本①】 力と重心	講義	テストの説明のみ
2	【バイオメカニクスの基本②】 床反力と身体運動	講義	上肢帯の筋
3	【バイオメカニクスの基本③】 並進運動と運動の法則	講義	肩関節の筋①
4	【バイオメカニクスの基本④】 回転運動とモーメント	講義	肩関節の筋②
5	【バイオメカニクスの基本⑤】 エネルギーとパワー、運動量と力量	講義	上肢の筋
6	【動作分析の基本①】 姿勢の基本、姿勢制御のバイオメカニクス	講義	前腕の筋 (伸筋・外転筋)
7	【動作分析の基本②】 動作の基本:寝返り動作	講義	前腕の筋(屈筋)
8	【動作分析の基本③】 動作の基本:起き上がり動作	講義	手内在筋
9	【動作分析の基本④】 動作の基本:起立・着座動作	講義	外寛骨筋・臀筋群
10	上肢機能	講義	大腿内側の筋
11	【歩行①】 正常歩行(1)歩行の基礎、歩行周期、ケイデンス、速度	講義	内寛骨筋・回旋筋群

12	【歩行②】 正常歩行(2)ロッカー機能、床反力、衝撃の吸収	講義	大腿前側の筋・ 大腿後側の筋
13	【歩行③】 正常歩行(3)歩行に必要な筋力、関節可動域、骨盤の動き	講義	下腿外側の筋・ 下腿前側の筋
14	【歩行】 異常歩行、走行との違い	講義	下腿後側の筋
15	定期試験	試験	

使用テキスト	基礎運動学／医歯薬出版
参考書・資料 等	随時紹介
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、運動学Ⅰ、運動学実習Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	運動学実習Ⅱ、身体の評価Ⅰ、作業療法評価学実習Ⅰ
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	1年生で行った解剖学、生理学、運動学の復習をしましょう。

授業科目名	運動学実習Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	運動学Ⅱで習得した身体運動に関する基礎知識を、実習を通じて確認する。また、姿勢・動作分析を適切に行う能力を習得する事によって、後期専門科目の要である作業療法評価学実習Ⅰの基盤となる知識を養う。		
授業科目の到達目標	☐ 基本の座位と立位姿勢について観察するポイントを説明できる ☐ 動作の分析に必要な用語を挙げて説明できる ☐ 動作を観察し、その結果を意味づけることができる ☐ 歩行の運動学的特徴を、実際の歩行観察で説明できる ☐ 異常歩行の要因を分析することができる ☐ 運動学で使用する動作解析機器について理解し、代表的な機器の操作方法と解析方法が身につく		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	関節の基本(復習)	演習	
2	姿勢分析① 正常座位、立位の観察	演習	
3	姿勢分析② 仙骨座り、ポジショニングの基本	演習	レポート課題
4	動作分析① 寝返り、起き上がりの動作分析	演習	レポート課題
5	動作分析② 立ち上がりの動作分析	演習	レポート課題
6	形態測定①	演習	レポート課題
7	形態測定②	演習	
8	上肢機能の検査①STEF	演習	レポート課題
9	上肢機能の検査②MFT	演習	レポート課題
10	正常歩行の観察 運動学的・運動力学的観点から正常歩行に関して学ぶ	演習	レポート課題
11	異常歩行の観察 障害像を提示し、結果 生じ得る異常歩行を理解する	演習	
12	表面筋電計の操作と解釈	演習	レポート課題
13	表面筋電計の操作と解釈	演習	

14	重心の位置, 重心動揺の測定	演習	レポート課題
15	重心の位置, 重心動揺の測定	演習	

使用テキスト	基礎運動学第6版／医歯薬出版
参考書・資料 等	随時紹介
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学、生理学、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	身体の評価Ⅰ、作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ、作業治療学実習Ⅰ・Ⅱ、評価実習、臨床実習
成績評価の方法	各実習の際のレポート課題 実習態度(積極性) 出席状況、授業態度によって減点
その他 受講生への要望等	実際に体験しながら、身体で覚える、実感することが大切です。欠席がないように努力しましょう。

授業科目名	人間発達学		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	心理学の観点から人間の生涯発達過程と発達にかかわる諸問題について学習する。本講義では、様々な発達の基礎理論および、具体的な発達過程を概観し、その知識を臨床現場でどのように活用するか紹介する。		
授業科目の到達目標	生涯発達の観点から、乳児期から高齢期までの発達過程に関する発達心理学の基礎理論を習得すること。発達心理学の基礎理論を、教育、子育て、キャリア等の日常場面のテーマの理解に活用して考えること。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	オリエンテーション／発達心理学とは	講義	
2	発達の各理論の紹介	講義	
3	発達研究の紹介	講義	
4	胎児期・新生児期	講義	
5	乳児期	講義	
6	幼児期前期	講義	
7	幼児期後期	講義	
8	児童期	講義	
9	青年期	講義	
10	成人初期・中期	講義	
11	成人後期・老年期	講義	
12	発達を援助する	講義	
13	発達を考える際に	講義	
14	まとめ	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	よくわかる発達心理学[第 2 版] ミネルヴァ書房
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	病理学 生物学 心理学
この授業科目から発展する主な科目	(理学療法学科)理学療法評価学Ⅲ 疾患別理学療法学Ⅰ・Ⅱ (作業療法学科)作業療法専門科目全般
成績評価の方法	出席状況・授業への参加度・試験等を総合して評価する
その他 受講生への要望等	

授業科目名	医学概論・一般臨床医学		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	30 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	リハビリテーション医療に必要な救命救急医療の病態を理解し、その対応を学ぶ。皮膚・産婦人科・耳鼻咽喉科・泌尿器・生殖器・眼疾患について解剖生理・症状病態・検査・診断・治療を学ぶ。また整形外科の基礎となる骨・筋・関節の構造・生理を学ぶ。		
授業科目の到達目標	①一般臨床医学・整形外科学の基礎知識としての習得できる。 ②患者の痛み、苦しみが分かる医療人としての心得を知る。 ③現代医療・福祉・介護の問題点の理解出来る。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 限:救命救急医療 2 限:救命救急医療	講義	
2	1 限:皮膚疾患 2 限:皮膚疾患	講義	
3	1 限:婦人科・産科疾患 2 限:婦人科・産科疾患	講義	
4	1 限:耳鼻咽喉科疾患 2 限:耳鼻咽喉科疾患	講義	
5	1 限:整形外科基礎 骨の構造、生理、科学 2 限:整形外科基礎 骨の発生、成長、維持	講義	
6	1 限:整形外科基礎 骨の病態、病理 2 限:整形外科基礎 骨の修復と再生	講義	
7	1 限:整形外科基礎 筋・神経の構造、生理、科学 2 限:整形外科基礎 痛みの基礎科学と臨床	講義	
8	1 限:オリエンテーション 2 限:外科総論	講義	
9	1 限:泌尿器・生殖器疾患 2 限:泌尿器・生殖器疾患	講義	
10	1 限:眼疾患 2 限:眼疾患	講義	
11	1 限:特殊な問題(侷風・骨粗鬆症) 2 限:特殊な問題(侷風・骨粗鬆症)	講義	
12	1 限:整形外科基礎(関節の構造) 2 限:整形外科基礎(関節の構造)	講義	

13	1 限:整形外科基礎(関節の病態) 2 限:整形外科基礎(関節の病態)	講義	
14	1 限:総括 2 限:総括	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	1)PT・OT・ST のための一般臨床医学 医歯薬出版 2)標準整形外科学 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ, 生理学Ⅰ・Ⅱ, 病理学, 運動学Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	整形外科学, 評価実習, 臨床実習 (理学療法学科)理学療法評価学Ⅰ～Ⅳ, 理学療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ, 運動療法学Ⅰ～Ⅳ, 運動療法学実習Ⅰ～Ⅲ, 理学療法総論 (作業療法学科)作業療法評価学に関する全ての科目, 作業療法治療学に関する全ての科目
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	内科学・老年学		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	30 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	内科学一般(ただし神経学を除く)に関する俯瞰的な授業を通して、ヒトの体のしくみと病態に関する基礎的知識を身につけ、理学療法あるいは作業療法を適用する際の対象患者の医学的背景を理解できる素地を養い、他のメディカルワーカーとのコミュニケーションに必要な医学的概念を共通言語として理解できるようにすることを本講の主幹目的としたい。		
授業科目の到達目標	①循環器系における機能の仕組みとその障害について理解し、その治療法を知る。 ②消化器系における機能の仕組みとその障害について理解し、その治療法を知る。 ③代謝・血液疾患の病態を理解できる。 ④呼吸器系の病態生理、呼吸機能障害を知り、治療を理解できる。 ⑤泌尿器系の病態生理、呼吸機能障害を知り、治療を理解できる。 ⑥各疾患における理学療法・作業療法との関連を知ることができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 限:内科総論 2 限:内科総論	講義	
2	1 限:循環器学 2 限:循環器学	講義	
3	1 限:循環器学 2 限:循環器学	講義	
4	1 限:消化器学 2 限:消化器学	講義	
5	1 限:消化器学 2 限:消化器学	講義	
6	1 限:代謝内分泌学 2 限:代謝内分泌学	講義	
7	1 限:代謝内分泌学 2 限:代謝内分泌学	講義	
8	1 限:中毒・物理的要因による疾患 2 限:中毒・物理的要因による疾患	講義	
9	1 限:血液疾患 2 限:血液疾患	講義	
10	1 限:呼吸器学 2 限:呼吸器学	講義	
11	1 限:呼吸器学 2 限:呼吸器学	講義	

12	1 限:アレルギー・感染症・膠原病 2 限:アレルギー・感染症・膠原病	講義	
13	1 限:腎臓・泌尿器学 2 限:腎臓・泌尿器学	講義	
14	1 限:腎臓・泌尿器学 2 限:寄生虫学	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	標準理学療法学・作業療法学「内科学」 大成浄志著 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 病理学
この授業科目から発展する主な科目	薬理学 (理学療法学科)運動療法学Ⅳ, 理学療法症例研究, 理学療法総論 (作業療法学科)作業療法評価学に関する全ての科目、作業療法治療学に関する全ての科目
成績評価の方法	1)定期試験 2)その他
その他 受講生への要望等	

授業科目名	整形外科科学		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	2023 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	30 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	①整形外科科学基礎の習得 ②リハビリテーションとのかかわりの理解		
授業科目の到達目標	①整形外科科学の基礎知識を習得することができる。 ②患者の痛み、苦しみが分かる医療人としての心得を理解できる。 ③現代医療・福祉・介護の問題点の理解出来る。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 限：整形外科科学総論 2 限：整形外科科学総論	講義	
2	1 限：先天性骨系統疾患 2 限：先天異常症候群	講義	
3	1 限：神経疾患、筋疾患 2 限：ロコモティブシンドローム	講義	
4	1 限：疾患各論 -手関節および手指 1 2 限：疾患各論 -手関節および手指 2	講義	
5	1 限：外傷総論 2 限：軟部組織損傷	講義	
6	1 限：疾患各論 -胸椎、腰椎 1 2 限：疾患各論 -胸椎、腰椎 2	講義	
7	1 限：脊椎・脊髄損傷 2 限：末梢神経損傷	講義	
8	1 限：整形外科診断総論 2 限：軟部組織・骨・関節の感染症	講義	
9	1 限：関節リウマチとその類縁疾患 2 限：慢性関節疾患、四肢循環障害と阻血性疾患	講義	
10	1 限：代謝性骨疾患 2 限：骨腫瘍	講義	
11	1 限：疾患各論 -肩関節、肘関節疾患 2 限：疾患各論 -軟部腫瘍	講義	
12	1 限：疾患各論 -頸椎、胸部疾患 2 限：疾患各論 -股関節疾患	講義	

13	1 限:疾患各論 -膝関節疾患 2 限:疾患各論 -足関節と足趾	講義	
14	1 限:骨折・脱臼 2 限:スポーツ障害	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	1)標準整形外科学 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅰ・Ⅱ 医学概論・一般臨床医学
この授業科目から発展する主な科目	(理学療法学科)疾患別理学療法Ⅰ・Ⅱ 理学療法症例研究 理学療法評価学Ⅱ 理学療法評価学実習Ⅱ 日常生活活動学 (作業療法学科)作業療法評価学に関する全ての科目, 作業療法治療学に関する全ての科目
成績評価の方法	1)定期試験 2)その他
その他 受講生への要望等	

授業科目名	臨床神経学Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	30 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	臨床神経学で扱う神経筋疾患はリハビリテーション医学の重要な対象疾患である。セラピストが良い訓練を行うためには、これらの疾患の論理的な理解が必要である。実際の訓練に携わって役に立つという視点から、臨床神経学、中枢および末梢神経と筋肉疾患全般を臨床神経学ⅠとⅡで講義し、これらの機能評価の為の神経学的所見のとり方にも触れる。臨床神経学Ⅰでは、これらの習得のために必要な神経機能解剖学、神経生理学の基礎的知識の修得からはじまり、神経学的診断学を修得し、さらに神経疾患の総論を講義する。講義はスライドと小テスト、試問の反復で行われる。		
授業科目の到達目標	①神経筋疾患を理解する上で必要な神経機能解剖・神経生理学の知識を理解できる。 ②神経学的所見、神経学的診断を理解できる。 ③臨床神経学の各種疾患の概説を理解できる ④高次脳機能障害を理解し、リハビリテーションを学ぶ。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 限:リハビリテーションについて 2 限:ICF	講義	
2	1 限:ADL 評価法 2 限:神経疾患の病歴のとり方 神経機能解剖学	講義	
3	1 限:意識障害の評価 2 限:神経機能解剖学(大脳基底核 脳幹及び脳神経)	講義	
4	1 限:神経機能解剖学(小脳) 2 限:神経機能解剖学(脊髄)	講義	
5	1 限:神経学的局在診断法 錐体路系 変性疾患 2 限:神経学的局在診断法 パーキンソン病	講義	
6	1 限:神経学的局在診断法 感覚系 2 限:神経学的局在診断法 感覚系	講義	
7	1 限:神経学的局在診断法 錐体外路系 2 限:神経学的局在診断法 錐体外路系	講義	
8	1 限:神経学的局在診断法 小脳系 2 限:神経学的局在診断法 小脳系	講義	
9	1 限:神経学的所見のとり方 2 限:脳神経の診断法	講義	
10	1 限:意識障害 2 限:脳死と心臓死	講義	
11	1 限:失語症の診かた 2 限:高次脳機能障害の診かた	講義	

12	1 限:神経病学総論 2 限:臨床神経学の各種疾患の概説	講義	
13	1 限:失行のリハビリテーション 2 限:遂行機能障害	講義	
14	1 限:中枢神経系の感染症 2 限:中枢神経系の感染症	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「神経内科学」 川平和美著 医学書院
参考書・資料 等	1)ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭・他著 南山堂
この授業科目の前提となる主な科目	神経解剖学 一般内科学
この授業科目から発展する主な科目	リハビリテーション医学全般 高齢者医学 地域リハビリテーション学 地域医療介護福祉論 臨床神経心理学
成績評価の方法	1)定期試験の成績 2)通常の講義中の受講態度、必要時行われるワークショップでの参加活動状況 1)、2)の総合評価とする
その他 受講生への要望等	資格取得後も実務の繋がるリハビリテーションの対象疾患を扱った科目なので、プロフェッショナル育成の視点も加味して講義をするので、受講生の積極的な学習姿勢を求める。

授業科目名	臨床神経学Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	2023 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	30 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	臨床神経学で扱う神経筋疾患はリハビリテーション医学の重要な対象疾患である。セラピストが良い訓練を行うためには、これらの疾患の論理的な理解が必要である。 臨床神経学Ⅱでは、実際の臨床で直面する疾患についての実際の訓練に携わって役に立つという点から中枢および末梢神経と筋疾患全般についての各論を講義する。 少子化高齢社会へ向けての社会医学的なニーズ、地域包括ケアシステムでの脳卒中や運動器疾患のリハビリテーションの現状について触れる。		
授業科目の到達目標	①神経筋疾患を理解する上で必要な神経機能解剖・神経生理学の知識を理解できる。 ②脳血管障害の診かた、リハビリテーションを理解できる。 ③パーキンソン病とその類似疾患を学びリハビリテーションを理解できる。 ④変性疾患、脱髄疾患、筋疾患の概要を理解できる。 ⑤嚥下のメカニズムを理解し、リハビリテーションを理解できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 限:脳血管障害(脳血管の解剖) 2 限:脳血管障害(検査法、緊急時対応、合併症、後遺症)	講義	
2	1 限:脳血管障害各論 脳梗塞 2 限:脳血管障害各論 脳梗塞のリハビリ	講義	
3	1 限:脳血管障害各論 脳出血 2 限:脳血管障害各論 くも膜下出血	講義	
4	1 限:脳血管障害各論 2 限:脳血管障害各論 脳血管障害その他	講義	
5	1 限:脳血管障害各論 意識障害の診かた 2 限:脳血管障害各論 脳卒中の診かた	講義	
6	1 限:脳血管障害各論 脳卒中のリハビリ 2 限:パーキンソン病	講義	
7	1 限:パーキンソン病 2 限:パーキンソン病と類似疾患	講義	
8	1 限:変性疾患 SCD、MSA 2 限:運動ニューロン疾患	講義	
9	1 限:ALS のリハビリ 2 限:ALS の在宅医療	講義	
10	1 限:脱髄疾患 2 限:筋疾患	講義	
11	1 限:多発性筋炎 2 限:廃用症候群	講義	

12	1 限:高齢者の廃用症候群 2 限:肺炎と嚥下障害	講義	
13	1 限:メディカルニューロロジ 2 限:メディカルニューロロジ(嚥下)	講義	
14	1 限:嚥下のリハビリ 2 限:排尿障害、フレイル	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「神経内科学」 川平和美著 医学書院
参考書・資料 等	1)ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭・他著 南山堂
この授業科目の前提となる主な科目	神経解剖学 一般内科学
この授業科目から発展する主な科目	リハビリテーション医学全般 高齢者医学 地域リハビリテーション学 地域医療介護福祉論 臨床神経心理学
成績評価の方法	1)期末試験の成績
その他 受講生への要望等	

授業科目名	精神医学Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	人間の精神機能および中枢機能の失調、障害について発生機序、症状などを学習し、さらにその診断方法、治療方法を学ぶ。それに加えて、治療者、患者、家族関係のみならず社会対策など多面的な対応を学ぶ。この科目では臨床でよくみられる精神症状と状態像、認知症疾患、アルコール、薬物関連障害、てんかんについて学ぶ。		
授業科目の到達目標	①精神障害についてその発生機序や症状などを理解できる。 ②精神障害についてその診断方法、治療法を理解できる。 ③治療者、患者、家族関係や社会的対策など、多面的な対応方法を理解できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	精神医学とは：正常と異常	講義	
2	よくみられる精神症状と状態像：意識・知能の障害	講義	
3	よくみられる精神症状と状態像：性格・知覚の障害	講義	
4	よくみられる精神症状と状態像：思考・感情の障害	講義	
5	精神科に必要な脳・神経症状の知識	講義	
6	症状性および器質性精神障害	講義	
7	認知症疾患：アルツハイマー病	講義	
8	認知症疾患：レビー小脳認知症	講義	
9	認知症疾患：その他の認知症	講義	
10	アルコール関連障害	講義	
11	薬物関連障害	講義	
12	てんかん 1	講義	
13	てんかん 2	講義	
14	てんかん 3	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	精神医学テキスト 上島他編 南江堂
参考書・資料 等	現代臨床精神医学 大熊著 金原出版
この授業科目の前提となる主な科目	臨床心理学
この授業科目から発展する主な科目	精神医学Ⅱ (理学療法学科)理学療法総論 (作業療法学科)精神の評価Ⅰ・Ⅱ, 精神疾患と障害Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 家族機能の評価, 家族機能の再構築, 作業療法評価学実習, 作業療法治療学実習等

成績評価の方法	1)定期試験 2)その他
その他 受講生への要望等	

授業科目名	精神医学Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	2023 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	人間の精神機能および中枢機能の失調、障害について発生機序、症状などを学習し、さらにその診断方法、治療方法を学ぶ。それに加えて、治療者、患者、家族関係のみならず社会対策など多面的な対応を学ぶ。この科目では臨床でよくみられる精神症状と状態像、統合失調症、気分障害、神経症性障害、摂食障害、パーソナリティ障害、小児の障害について学ぶ。		
授業科目の到達目標	①精神障害についてその発生機序や症状などを理解できる。 ②精神障害についてその診断方法、治療法を理解できる。 ③治療者、患者、家族関係や社会的対策など、多面的な対応方法を理解できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	統合失調症1	講義	
2	統合失調症 2	講義	
3	統合失調症 3	講義	
4	統合失調症 4	講義	
5	統合失調症 5	講義	
6	気分障害1	講義	
7	気分障害 2	講義	
8	気分障害 3	講義	
9	気分障害 4	講義	
10	神経症性障害1	講義	
11	神経症性障害 2	講義	
12	摂食障害、睡眠障害	講義	
13	パーソナリティ障害	講義	
14	小児の障害	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	精神医学テキスト[改訂第4版] 上島他編 南江堂
参考書・資料 等	現代臨床精神医学 大熊著 金原出版
この授業科目の前提となる主な科目	精神医学Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	(理学療法学科)理学療法総論 (作業療法学科)精神の評価Ⅰ・Ⅱ, 精神疾患と障害Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 家族機能の評価, 家族機能の再構築, 作業療法評価学実習, 作業療法治療学実習等

成績評価の方法	1)定期試験 2)その他
その他 受講生への要望等	

授業科目名	リハビリテーション医学		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	時代の変遷や人口構成の変化、疾病構造の変化とともにリハビリテーションの内容は多岐にわたり、より複雑となり、それとともにリハビリテーションの果たす役割は一層大きくなっている。リハビリテーションの対象となる疾患等の知識、治療、リハビリテーションについて学ぶ。		
授業科目の到達目標	①既に修得したリハビリテーション概論の更に理解できる。 ②リハビリテーションが関与する疾患等の基礎知識を修得できる。 ③リハビリテーションを中心とした医療現場の流れや実際を理解できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	関節拘縮とリハビリテーション、脳卒中のリハビリテーション(急性期)	講義	
2	筋力低下と筋力増強訓練、脳卒中のリハビリテーション(回復期)	講義	
3	運動麻痺と神経筋再教育、パーキンソン症候群	講義	
4	運動学習の理論、多発性硬化症	講義	
5	異常歩行と歩行訓練、神経・筋疾患	講義	
6	失語症と言語聴覚療法、脊髄損傷	講義	
7	失認と失行、外傷性脳損傷	講義	
8	高次脳機能障害、四肢切断	講義	
9	摂食・嚥下障害、運動器リハビリテーション	講義	
10	排泄障害、関節リウマチ	講義	
11	痙縮のコントロール、慢性疼痛	講義	
12	高齢化と介護予防、脳性麻痺	講義	
13	心筋梗塞のリハビリテーション、呼吸器疾患とリハビリテーション	講義	
14	生活習慣病とリハビリテーション	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	リハビリテーション総論 椿原彰夫編著 診断と治療社
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅰ・Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	臨床医学全般, 評価学実習, 臨床実習 (理学療法学科)理学療法症例研究 (作業療法学科)作業療法専門科目全般
成績評価の方法	1)定期試験 2)その他
その他 受講生への要望等	

授業科目名	基礎作業学総論Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	作業を行うことの意味について「作業」の分析を通して学ぶ。また「作業」や「作業活動」が私達の生活においてどのような関わりをもつのかについて学ぶ。		
授業科目の到達目標	1. 作業療法士が扱う「作業」について、どのようなものか説明することができる。 2. ひとと「作業」の関わりについて説明することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題/小テスト
1	授業オリエンテーション・「作業」の意義とは何か	講義	
2	作業療法士が用いる「作業」について(原理・理論)	講義	
3	作業療法士が用いる「作業」について(原理・理論)	講義	小テスト
4	「作業」・「作業活動」を分析する 1	講義	
5	「作業」・「作業活動」を分析する 2	演習	
6	「作業」・「作業活動」を分析する 3	演習	
7	「作業」・「作業活動」を分析する 4	発表	レポート
8	作業を用いることによる効果	講義・演習	
9	「作業分析」「課題分析」	講義	
10	作業活動とその障害 1 ひとと暮らし	講義・演習	
11	作業活動とその障害 2 ひとと暮らし	講義・演習	レポート
12	様々な分析方法(限定的分析)1	講義	
13	様々な分析方法(限定的分析)2	発表	
14	人間作業モデル	講義	
15	作業の用い方・その治療的応用	講義	
16	定期試験	試験	

使用テキスト	1)ひとと作業・作業活動(新版):山根寛・二木淑子・加藤寿宏著;三輪書店
参考書・資料 等	1)作業・その治療的応用 改訂第2版;協同医書出版 2)基礎作業学実践ガイド:浅沼辰志・佐藤浩二著;協同医書出版 3)人間作業モデル:Gary Kielhofner 編 山田孝 訳;協同医書出版 4)作業療法実践の理論 原書第4版:Gary Kielhofner:医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	作業療法概論・基礎作業学総論Ⅰ・基礎作業学実習Ⅰ

この授業科目から発展する主な科目	基礎作業学実習Ⅱ・基礎作業学実習Ⅲ・作業療法評価学
成績評価の方法	1)発表:30% 2)定期試験:70%
その他 受講生への要望等	作業療法の考え方の基礎となる教科です。 理論や分析が中心となりイメージ力が求められます。 理解できないことがあればすぐに確認しに来てください。

授業科目名	基礎作業学実習Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士、木工作家
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	30 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	作業療法において治療手段となる作業・作業活動(Activity)について知る。また、実際に作業活動を行うことによって、作業工程一つひとつを理解する。		
授業科目の到達目標	1. 作業療法士が治療として用いる「作業活動」について説明できる。 2. 対象者に「作業活動」を用いることの意味を説明できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 限:授業オリエンテーション・Activity「革細工」 2 限:Activity「革細工」	講義・実習	
2	1 限: Activity「革細工」 2 限: Activity「革細工」	実習	レポート (革細工)
3	1 限: Activity「籐細工」 2 限: Activity「籐細工」	実習	
4	1 限: Activity「籐細工」 2 限: Activity「籐細工」	実習	レポート (籐細工)
5	1 限: Activity「あんでるせん」 2 限: Activity「あんでるせん」	実習	
6	1 限: Activity「あんでるせん」 2 限: Activity「あんでるせん」	実習	レポート (あんでるせん)
7	1 限: Activity「張り子」 2 限: Activity「張り子」	実習	
8	1 限: Activity「張り子」 2 限: Activity「張り子」	実習	レポート (張り子)
9	1 限: Activity「タイルモザイク」 2 限: Activity「タイルモザイク」	実習	
10	1 限: Activity「タイルモザイク」 2 限: Activity「タイルモザイク」	実習	レポート (タイルモザイク)
11	1 限: Activity の臨床的応用 2 限: Activity の臨床的応用	講義・実習	
12	1 限: Activity「紙と草」 2 限: Activity「紙と草」	実習	
13	1 限: Activity「お箸セット」 2 限: Activity「お箸セット」	実習	
14	1 限: Activity「照明」 2 限: Activity「照明」	実習	
15	1 限: Activity「照明」 2 限: Activity「照明」	実習	レポート (池田先生内容)

使用テキスト	特に使用しない
参考書・資料 等	1)ひとと作業・作業活動[新版]:山根寛 著;三輪書店 2)作業・その治療的応用 改訂第2版;協同医書出版 3)基礎作業学実践ガイド:浅沼辰志・佐藤浩二著;協同医書出版 4)作業活動実習マニュアル;医歯薬出版株式会社 5)「作業」って何だろう;医歯薬出版株式会社
この授業科目の前提となる 主な科目	作業療法概論・基礎作業学総論Ⅰ・基礎作業学総論Ⅱ・基礎作業学実習Ⅰ
この授業科目から発展する 主な科目	基礎作業学総論Ⅱ・基礎作業学総論Ⅲ・基礎作業学実習Ⅲ
成績評価の方法	1)レポート 2)作品完成度 3)出席日数
その他 受講生への要望等	Activity の工程を理解するとともに、作業が身体的・精神的・社会的に与える影響を分析します。この授業を通して、作業・作業活動について知識を整理し、他者に説明できる能力を身に付けていただきたいと思います。

授業科目名	基礎作業学実習Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士、木工作家、手織り作家
開講年度	2023 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	30 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	作業療法において治療的手段となる作業・作業活動(Activity)について学ぶ。また実習を通して、作業工程の一つひとつの特性を理解する。解剖学実習において、人体の作りを改めて確認し、作業を実施している時の脳の機能や人の身体の動きを考える。		
授業科目の到達目標	1. 作業療法士が治療として用いる「作業活動」を知る。 2. 対象者に「作業活動」を用いることの意味を理解する。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 限: Activity「陶芸」 2 限: Activity「陶芸」	実習	
2	1 限: Activity「陶芸」 2 限: Activity「陶芸」	実習	
3	1 限: Activity「楊枝づくり」 2 限: Activity「楊枝づくり」	実習	
4	1 限: Activity「楊枝づくり」 2 限: Activity「振出しづくり」	実習	
5	1 限: Activity「振出しづくり」 2 限: Activity「振出しづくり」	実習	
6	1 限: Activity「茶杓づくり」 2 限: Activity「茶杓づくり」	実習	
7	1 限: Activity「茶杓づくり」 2 限: Activity「茶杓づくり」	実習	
8	1 限: Activity「お茶会」 2 限: Activity「お茶会」	実習	
9	1 限: Activity「さをり織り」 2 限: Activity「さをり織り」	実習	
10	1 限: Activity「さをり織り」 2 限: Activity「さをり織り」	実習	
11	1 限: Activity「さをり織り」 2 限: Activity「さをり織り」	実習	
12	1 限: Activity「さをり織り」 2 限: Activity「さをり織り」	実習	
13	1 限: Activity「さをり織り」 2 限: Activity「さをり織り」	実習	
14	1 限: Activity「さをり織り」 2 限: Activity「さをり織り」	実習	

15	大平山登山	実習	
----	-------	----	--

使用テキスト	特に使用しない
参考書・資料 等	1)ひとと作業・作業活動[新版]:山根寛 著;三輪書店 2)作業・その治療的応用 改訂第2版;協同医書出版 3)基礎作業学実践ガイド:浅沼辰志・佐藤浩二著;協同医書出版 4)作業活動実習マニュアル;医歯薬出版株式会社 5)「作業」って何だろう;医歯薬出版株式会社
この授業科目の前提となる主な科目	作業療法概論、基礎作業学総論Ⅰ、基礎作業学総論Ⅱ、基礎作業学総論Ⅲ、基礎作業学実習Ⅰ、基礎作業学実習Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	評価実習
成績評価の方法	1)レポート 2)作品完成度 3)出席日数
その他 受講生への要望等	Activityの工程を理解するとともに、作業が身体的・精神的・社会的に与える影響を分析します。この授業を通して、作業・作業活動について知識を整理し、他者に説明できる能力を身に付けていただきたいと思います。

授業科目名	身体の評価Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2023 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	作業療法評価の意義、過程、目的、手順を学ぶ。 具体的な作業療法評価の方法について学ぶ。 評価のまとめから治療目標設定、治療プログラムに至る一連の過程について学ぶ。 作業療法の効果判定や記録、報告の重要性について学ぶ。		
授業科目の到達目標	評価とは何か、評価の視点を ICF の定義と関連付け説明できる。 評価の過程、評価の時期、目的、手段を説明できる。 問題点と利点、治療目標の種類とそれぞれの意義について説明できる。 作業療法の効果判定、守秘義務の重要性、記録と報告について説明できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	関節可動域の評価	講義	出席状況
2	関節可動域の評価	講義	出席状況
3	関節可動域の評価	実習	出席状況
4	筋力の評価	実習	出席状況
5	筋力の評価	講義	出席状況
6	筋力の評価	実習	出席状況
7	筋力の評価	実習	出席状況
8	随意性の評価 (随意性とは。運動麻痺の病態生理、片麻痺の状態像)	講義	出席状況
9	筋緊張・反射の評価 (筋緊張とは何か、正常筋緊張と異常筋緊張、中枢神経麻痺と末梢神経麻痺、反射の病態生理、反射の種類、反射検査を行う意味)	講義	出席状況
10	感覚の評価 (感覚の種類、感覚の病態整理、感覚障害について)	講義	出席状況
11	バランスの評価 (バランスの定義、バランス反応、障害について)	講義	出席状況
12	脳神経の評価 (脳神経の病態生理、種類と機能、ワレンベルグ症候群)	講義	出席状況
13	高次脳機能障害の評価(概論) (大脳の機能局在、高次脳機能障害とは)	講義	出席状況
14	麻痺側上肢機能の評価 (上肢機能の回復について、亜脱臼の評価と対策など)	講義	出席状況

15	定期試験		
----	------	--	--

使用テキスト	能登真一 他 編:標準作業療法学専門分野 作業療法評価学.第3版,医学書院,2017
参考書・資料 等	1)津山直一 訳:新・徒手筋力検査法.原著第9版,協同医書出版社,2014
この授業科目の前提となる主な科目	1)解剖学 2)生理学 3)臨床神経学Ⅰ 4)運動学Ⅱ 5)運動学実習Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	1)身体の評価Ⅱ 2)身体疾患と障害Ⅱ 3)作業療法評価学実習Ⅱ 4)作業治療学実習Ⅰ
成績評価の方法	評価時期:1)出席状況 2)定期試験 評価対象及び配分:1)15回中10回以上の出席 2)定期試験 100% *1)を満たしかつ2)の60%を基準に科目の合格とする。
その他 受講生への要望等	基礎となる科目を復習しておくこと 専門領域に向けた知識の統合と解釈および技術の向上を望む。

授業科目名	精神の評価Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2023 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	精神保健福祉領域の臨床において必要となる作業療法評価について、人の発達を、主に、精神力動の視点から体系的に学ぶ。		
授業科目の到達目標	・ 精神保健におけるアセスメントについて説明することができる。 ・ フロイト等精神力動(精神分析)の主要理論について説明することができる。 ・ エリクソン等自我心理学の主要理論について説明することができる。 ・ マーラーの分離・個体化理論について説明することができる。 ・ ブロスの第2の個体化理論について説明することができる。 ・ 精神力動の視点から、症例をアセスメントすることができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	ライフサイクルを考える ～昨今の社会問題を手掛かりとして～ Key:「DV」「虐待」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイント をまとめ理解を深める。
2	胎生期・胎児期のアセスメント Key:「漸成原理(発達)」「ライフサイクル」「ライフステージ」「深層心理・フロイト」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイント をまとめ理解を深める。
3	乳幼児期のアセスメント(1) Key:「エリクソン」「ウニコット」「スターン」「クライン」 / 教科書 P7～P24, 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイント をまとめ理解を深める。
4	乳幼児期のアセスメント(2) Key:「ボウルビィ」「マーラー(分離・個体化理論)」 / 教科書 P7～P24, 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイント をまとめ理解を深める。
5	幼児期のアセスメント(1) Key:「オイディプスコンプレックス」「一者言語・二者言語から三者言語へ」 / 教科書 P25～P42, 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイント をまとめ理解を深める。
6	幼児期のアセスメント(2) Key:「フロイトの理論」 / 教科書 P25～P42, 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイント をまとめ理解を深める。
7	児童期前期のアセスメント Key:「勤勉性と劣等感」 / 教科書 P43～P57, 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイント をまとめ理解を深める。
8	児童期後期のアセスメント Key:「第二次性徴の先がけ」「プレ思春期・青年期」「自我理想」 / 教科書 P58～P74, 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイント をまとめ理解を深める。

9	胎生期～児童期後期までの知識の整理と統合 Key:ここまでの授業のポイントの再確認をする。	試験	〇ここまでの配布セルフチェックポイントの確認をする。
10	思春期・青年期のアセスメント(1) Key:「ピアジェの理論」「アイデンティティ」 / 教科書 P75～P94, 配付資料	講義	〇配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める。
11	思春期・青年期のアセスメント(2) Key:「フロイトの第2の個体化理論」 / 教科書 P95～P139, 配付資料	講義	〇配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める。
12	思春期・青年期のアセスメント(3) Key:「思春期・青年期の病理」 / 教科書 P95～P139, 配付資料	講義	〇配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める。
13	成人期のアセスメント Key:「親密性と孤立」「レビンソンの理論」 / 教科書 P140～P171, 配付資料	講義	〇配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める。
14	中年期のアセスメント Key:「ユングの理論」 / 教科書 P172～P188, 配付資料	講義	〇配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める。
15	老年期のアセスメントならびにライフサイクルとその後 Key:「自我の統合と絶望」 / 教科書 P189～P219, 配付資料	講義	〇配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める。
16	思春期・青年期～老年期ならびにライフサイクルとその後までの知識の整理と統合 Key:ここまでの授業のポイントの再確認をする。	試験	〇ここまでの配布セルフチェックポイントの確認をする。

使用テキスト	「ライフサイクルの臨床心理学」馬場 礼子 他. 培風館。
参考書・資料 等	1)「アイデンティティとライフサイクル」エリク・H・エリクソン著. 誠信書房。 2)「精神科作業療法の手引き」松井 紀和 著. 牧野出版。 3)「心の臨床家のための<改訂>精神医学ハンドブック」小此木 啓吾・深津 千賀子・大野 裕 編. 創元社. 他
この授業科目の前提となる主な科目	1年前期「心理学」, 1年後期「臨床心理学」 2年前・後期「精神医学」, 2年後期「精神疾患と障害Ⅰ」「精神の評価Ⅰ」「家族機能の評価」
この授業科目から発展する主な科目	3年前期「精神の評価Ⅱ」「家族機能の再構築」「精神疾患と障害Ⅱ」 3年後期「精神疾患と障害Ⅲ」, 「評価実習」 4年前期「臨床実習」
成績評価の方法	筆記試験(80点), レポート課題(20点)
その他 受講生への要望等	症例理解のため、人のこころ(深層心理)のへの関心を広げてください。 自身が臨床での実習を行っている状況をイメージして主体的に授業に取り組んでください。

授業科目名	発達の評価Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2023 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	子どもの発達を阻害する発達障がいとはどのようなものなのかを理解するために、その基礎となる子どもの発達について知識を深める。		
授業科目の到達目標	1. 運動に関わる反射(原始反射、姿勢反応)について説明できる。 2. 子どもの運動発達(粗大運動機能、微細運動機能)について説明できる。 3. 運動発達に関連する認知機能、社会性などの発達について説明できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	授業オリエンテーション・発達とは何か？	講義	
2	運動(機能)の発達 1	講義	
3	運動(機能)の発達 2	講義	
4	運動(機能)の発達 3	講義	
5	微細運動(目と手の協調)の発達	講義・演習	小テスト(運動機能)
6	反射(原始反射、姿勢反応)について1	講義	
7	反射(原始反射、姿勢反応)について2	講義	
8	反射(原始反射、姿勢反応)について3	講義	
9	まとめ	講義	小テスト(反射)
10	認知機能の発達(ピアジェ)	講義	
11	心理・社会的機能の発達(フロイト・エリクソン)	講義	
12	遊びの発達(運動・認知・心理機能との関連)	講義	小テスト(認知・遊び)
13	発達を評価する手段 1	講義	
14	発達を評価する手段 2	講義	
15	発達についてのまとめ	演習	
16	定期試験	試験	

使用テキスト	1)写真でみる乳幼児健診の神経学的チェック法【第10版】:前川喜平 他著:南山堂
参考書・資料 等	1)理学療法評価学 改訂第5版. 松澤正 他著:金原出版 2)標準作業療法学 作業療法評価学 第3版. 能登真一 他著. 医学書院 3)生涯人間発達学. 上田礼子 著:三輪書店
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学、生理学、運動学、心理学、臨床心理学、人間発達学

この授業科目から発展する主な科目	(PT)運動療法学Ⅲ、運動療法学実習Ⅲ (OT)作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ、発達の評価Ⅱ、発達の構築
成績評価の方法	1)小テスト:30% 2)定期試験:70%
その他 受講生への要望等	子どもの発達を、解剖学的、生理学的、運動学的な側面から学びます。また、正常発達を学んだ上で評価の基礎を学修していきます。この授業を通して、しっかり復習もして下さい。

授業科目名	家族機能の評価		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2023 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	精神保健福祉領域の臨床において必要となる家族機能の評価について、システム理論・構造理論・コミュニケーション理論・精神分析理論・ナラティブ理論等の観点から体系的に学ぶ。		
授業科目の到達目標	・ 家族の機能の 4 つの柱について説明することができる。 ・ 乳幼児の生育に必要な 6 つの成分について説明することができる。 ・ 現代家族問題の 3 つの課題について説明することができる。 ・ システム理論の基本概念（開放システム等）について説明することができる。 ・ ミニューチンの「構造理論」の鍵概念について説明することができる。 ・ 精神分析理論からの家族機能理解の鍵概念について説明することができる。 ・ ボーエンの「自然システム理論」の鍵概念について説明することができる。 ・ ナージの「文脈療法」の鍵概念について説明することができる。 ・ コミュニケーション学派の鍵概念について説明することができる。 ・ ナラティブ理論からの家族機能理解の鍵概念について説明することができる。 ・ ジェノグラムならびにエコマップを用い家族機能を図式化し説明することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	ある家族に学ぶ（1） ～映像作品学習（「あなたはいま幸せですか 地球家族」）～ Key:「文化背景の差異」「家族機能の変化」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を深める。
2	ある家族に学ぶ（2） ～映像作品学習（「父ちゃんを忘れない」）～ Key:「対象喪失」「家族機能の変化」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を深める。
3	ある家族に学ぶ(まとめ) ～ある家族に学ぶ(1)(2)のシェアリング～ Key:「印象に残ったこと(5W1H)」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を深める。
4	家族の機能(1) ～家族を巡る諸相に見るその機能～ Key:「家族の機能」「生育の必要成分」「現代家族問題の課題」「家族理解の視点」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を深める。
5	家族の機能(2) ～理解のための鍵概念を学ぶ～ Key:「家族システム理論」「円環的因果律(認識論)」「家族システムの特徴」 / 教科書 P9～P24, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を深める。

6	家族の機能(3) ～ミニューチンの「構造理論」の鍵概念を学ぶ～ Key:「さまざまな連合」「3つの境界(心理的境界線)」 / 教科書 P24～P27, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を 深める。
7	家族の機能(4) ～ボーエンの「自然システム理論」の鍵概念を学ぶ～ Key:「自己分化」「多世代伝達過程」「三角関係化」「情緒的遮断」 / 教科書 P27～P32, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を 深める。
8	家族の機能(5) ～ナージの「文脈療法」の鍵概念を学ぶ～ Key:「公平さ」「忠誠心」「親役割代行」「共依存」「破壊的権利付与」 / 教科書 P32～P33, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を 深める。
9	家族の機能(6) ～コミュニケーション学派の鍵概念を学ぶ～ Key:「コミュニケーションの5つの公理」「ダブルバインド仮説」「コミュニケーションの悪循環」「解決志向アプローチ」「語られない家族のルール」 / 教科書 P231～P241, 配付資料	試験	○ここまでの配布セル フチェックポイントの 確認をする。
10	家族の機能(7) ～ナラティヴ理論の鍵概念を学ぶ～ Key:「物語・語りの治療的意味」「リフレクション」「オープンダイアログ」 / 教科書 P219～P227, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を 深める。
11	家族の機能(8) ～まとめ～ Key:「家族レジリアンス」「エンパワメント」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を 深める。
12	ジェノグラム&エコマップ描き方(1) Key:「標準シンボル」「関係図」「ラジャースシステム」 / 教科書 P33～P36, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を 深める。
13	ジェノグラム&エコマップ描き方(2) Key:「標準シンボル」「関係図」「ラジャースシステム」 / 教科書 P33～P36, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を 深める。
14	ジェノグラム&エコマップ描き方(3) Key:「標準シンボル」「関係図」「ラジャースシステム」 / 教科書 P33～P36, 配付資料	講義	○配布セルフチェックポ イントをまとめ理解を深 める。
15	知識の整理と統合 Key:ここまでの授業のポイントの再確認をする。	試験	○ここまでの配布セル フチェックポイントの確 認をする。

使用テキスト	「家族心理学～家族システムの発達と臨床的援助～第2版」中釜洋子 他著. 有斐閣ブックス.
参考書・資料 等	1)「家族のゆくえ～新しい家族社会学～」中村正 著. 人文書院. 2)「ジェノグラム～家族のアセスメントと介入～」モニカ・マクゴールドリック 他著. 渋沢田鶴子 監訳. 金剛出版. 3)「家族アセスメント Part I ～ジェノグラム・エコマップの描き方と使い方～」 小林奈美 著. 医歯薬出版. 4)「家族アセスメント Part II ～ファシリテートのエキスパートをめざして～」 小林奈美 著. 医歯薬出版.
この授業科目の前提となる主な科目	1年前期「心理学」, 1年後期「臨床心理学」 2年前・後期「精神医学」, 2年後期「精神疾患と障害Ⅰ」「精神の評価Ⅰ」「家族機能の評価」
この授業科目から発展する主な科目	3年前期「精神の評価Ⅱ」「家族機能の再構築」「精神疾患と障害Ⅱ」 3年後期「精神疾患と障害Ⅲ」, 「評価実習」 4年前期「臨床実習」
成績評価の方法	筆記試験(100点)
その他 受講生への要望等	症例理解とアプローチのため、家族理解への関心を広げてください. 自身が臨床での実習を行っている状況をイメージして主体的に授業に取り組んでください.

授業科目名	作業療法評価学実習 I		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2023 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	30 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	作業療法評価の各検査・測定を実践し、その技術を習得する。 身体の評価Ⅰ・精神の評価Ⅰで得た知識を基に、作業療法評価の方法を実践する。		
授業科目の到達目標	作業療法評価の検査・測定方法を実践できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	関節可動域検査 (ROM-T)	実習	参加状況
2	//	実習	参加状況
3	//	実習	参加状況
4	//	実習	参加状況
5	筋力検査 (MMT)	実習	参加状況
6	//	実習	参加状況
7	//	実習	参加状況
8	//	実習	参加状況
9	//	実習	参加状況
10	//	実習	参加状況
11	Brunnstrom Recovery Stage (BRS-T)	実習	参加状況
12	//	実習	参加状況
13	M-tone, Deep Tendon Reflex	実習	参加状況
14	//	実習	参加状況
15	Sensory-T	実習	参加状況
16	//	実習	参加状況
17	Balance-T	実習	参加状況
18	//	実習	参加状況
19	協調性の検査	実習	参加状況
20	子どもに対する評価の実際(1)	実習	参加状況
21	子どもに対する評価の実際(2)	実習	参加状況
22	子どもに対する評価の実際(3)	実習	参加状況
23	身体疾患領域の症例検討(1) ～PBL 方式を用いてのグループワーク～ key: 身体疾患領域 評価	演習	参加状況

24	身体疾患領域の症例検討(2) ～PBL 方式を用いてのグループワーク～ key:身体疾患領域 評価	演習	参加状況
25	身体疾患領域の症例検討(3) ～PBL 方式を用いてのグループワーク～ key:身体疾患領域 評価	演習	参加状況
26	精神保健領域の症例検討(1) ～PBL 方式を用いてのグループワーク～ key:精神保健領域 評価	演習	参加状況
27	精神保健領域の症例検討(2) ～PBL 方式を用いてのグループワーク～ key:精神保健領域 評価	演習	参加状況
28	精神保健領域の症例検討(1) ～PBL 方式を用いてのグループワーク～ key:精神保健領域 焦点化	演習	参加状況
29	精神保健領域の症例検討(1) ～PBL 方式を用いてのグループワーク～ key:精神保健領域 目標設定	演習	参加状況
30	定期試験	実技・記述	

使用テキスト	能登真一 他 編:標準作業療法学専門分野 作業療法評価学.第3版,医学書院,2017
参考書・資料 等	1)津山直一 訳:新・徒手筋力検査法.原著第9版,協同医書出版社,2014
この授業科目の前提となる主な科目	1)運動学Ⅱ 2)身体の評価Ⅰ 3)精神の評価Ⅰ 4)発達の評価Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	1)作業療法評価学実習Ⅱ 2)作業治療学実習Ⅰ
成績評価の方法	評価時期:1)出席状況 2)定期試験(実技試験含む) 3)レポート課題 評価対象及び配分:1)30 回中 24 回以上の出席 2) + 3)100% * 1)を満たしかつ 2) + 3)の 60%を基準に科目の合格とする。
その他 受講生への要望等	基礎となる科目を復習しておくこと 評価実習に向けた知識の統合と解釈および技術の向上を望む。

授業科目名	身体疾患と障害Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2023 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	脳血管障害による片麻痺患者の模擬症例を通して、患者の包括的な評価の考え方を学ぶ。また、効率よく評価をするため限られた情報で障害の予測を立てるための考え方を学ぶ。更に、症例報告書の基本的な書き方を学び、評価実習での実践に備える。この授業では、3年生に行われる評価実習に関して学生が持っているであろう不安を払拭し、今やるべきことを明確にし、評価実習に向けて学習意欲を高めていく。		
授業科目の到達目標	☐ 中枢性疾患の基本となる脳血管障害の病態を理解することができる ☐ 脳血管障害の患者の障害像を思い浮かべることができる ☐ 各障害を評価する前に、患者の基本となるフィジカルアセスメントが理解できる ☐ 身体領域の作業療法評価の流れを理解し、評価実習に対するイメージを持つことができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	評価概論	講義	出席状況
2	全身状態の理解	実技演習	出席状況
3	全身状態の理解	講義	出席状況
4	脳血管障害の医学的基礎① 脳出血の種類と病態像、くも膜下出血の病態像	講義	出席状況
5	脳血管障害の医学的基礎② 脳梗塞の種類と病態像	講義	出席状況
6	脳血管障害の病態別状態像、重症度別状態像 急性期・回復期・生活期別の評価項目を理解する	講義	出席状況
7	脳血管障害の評価（ICF に基づいた評価項目） 心身機能・活動と参加における評価項目	講義	出席状況
8	脳血管障害の評価 個人因子。環境因子における評価項目	講義	出席状況
9	作業療法評価計画の立案について 評価を適切に行うために重要なこと	講義	出席状況
10	作業療法評価計画（第 1 の予測に基づいた計画） 疾患名などの基本的な情報から予測する	演習	出席状況
11	作業療法評価計画（第 2 の予測に基づいた計画） 第 1 印象、短い時間でのコミュニケーションから予測する	演習	出席状況

12	人の動きのみかた① 姿勢・動作分析の基礎を学ぶ	講義	出席状況
13	人の動きのみかた② 姿勢・動作分析の基礎を学ぶ	講義	出席状況
14	人の動きのみかた③ 実際に観て分析してみよう	講義・演習	出席状況
15	定期試験	試験	

使用テキスト	なし
参考書・資料 等	随時紹介
この授業科目の前提となる主な科目	作業療法概論、基礎作業学総論、臨床神経学Ⅰ、Ⅱ、内科学
この授業科目から発展する主な科目	作業治療学実習Ⅰ、臨床神経学Ⅱ、評価実習、臨床実習
成績評価の方法	定期試験：記述試験（50％） 模擬症例レポート（50％） 授業に遅刻、欠席があった場合は、減点対象となります。 レポートのフィードバックの際の積極性は加点となります。
その他 受講生への要望等	配布資料を綴じる2穴ファイルを用意すること。資料の整理整頓の方法も説明し、 後日、確認のためのファイル提出があります。

授業科目名	精神疾患と障がいⅠ		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2023 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	精神保健領域に於ける基本アプローチの視点から作業療法の流れと評価の流れを学ぶ。また、自己分析など自分自身の体験経験を通じながら評価についての理解を深める。		
授業科目の到達目標	授業の具体的な到達目標としては以下の点を理解できること ①精神保健の歴史を理解した上で、精神障がい者が受けてきた迫害や現在の立場(どう捉えられてきたか?)について理解し、説明することができる。 ②構成的なテストや自分史をまとめる中で、自分自身について理解することができる。 ③精神科作業療法の流れを理解し説明できるようになる。 ④評価の目的は?どんな目的であるか説明できるようになる。 ⑤評価に必要な面接構造、面接の目的や種類を理解し説明することができる。 ⑥評価に必要な観察構造、観察の目的や形態を理解し説明することができる。 ⑦必要な情報をどの職種から収集出来るのかを理解し説明できるようになる。 ⑧精神科の薬物療法の特徴を理解し説明することができる。 ⑨評価された事柄のまとめ方(焦点化)を理解し説明することができる。 ⑩目標設定の留意点を理解し目標を立てられるようになる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	オリエンテーション精神保健領域のいま1(歴史編) ・教科書 精神障害と作業療法<新版>2017 P.35～P.56 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントを まとめ理解を深める
2	精神の病と障がい 「障害とは?何か?」 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントを まとめ理解を深める
3	自己を知る(自己分析) ・配布資料	講義 演習	構成的評価及び自分史 を通じ自己分析をする
4	エゴグラム／交流分析 ・配布資料	講義 演習	セルフチェックポイントを まとめ理解を深める
5	評価とは? ・教科書 精神障害と作業療法<新版>2017 P.155～P.166 ・配布資料	講義 演習	セルフチェックポイントを まとめ理解を深める

6	評価のながれ(面接) ・教科書 精神障害と作業療法<新版>2017 P.173～P.186 標準作業療法学専門分野作業療法評価学<第3版> ;2017 P36～P46 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントを まとめ理解を深める
7	評価のながれ(観察1) ・教科書 精神障害と作業療法<新版>2017 P.187～P.195 標準作業療法学専門分野作業療法評価学<第3版> ;2017 P46～P52 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントを まとめ理解を深める
8	評価のながれ(観察2) ・教科書 精神障害と作業療法<新版>2017 P.187～P.195 標準作業療法学専門分野作業療法評価学<第3版> ;2017 P46～P52 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントを まとめ理解を深める
9	評価の流れ(情報のまとめ・入院形態) ・教科書 精神障害と作業療法<新版>2017 P.160～P.162, P.171～P.173,P.195～P.197 精神医学テキスト<改訂第4版>2017 P.47～P.51, P.319～P.321 ・配布資料	講義 演習	セルフチェックポイントを まとめ理解を深める
10	評価の流れ(薬物)／<u>中間試験(12月実施予定)</u> ・教科書 精神医学テキスト<改訂4版> P.245～P.257, P.341～P.352 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントを まとめ理解を深める
11	評価の流れ(全体像のまとめ・ICF・治療計画) ・教科書 精神障害と作業療法<新版>2017 P.12～P.30, P.88～P.92, P.160～P.164,P.199～P.210,P.216～P.250 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントを まとめ理解を深める <u>中間試験の日程は掲示 する</u>
12	精神保健領域のOT ―いま・そしてこれから― (医療領域を中心に) ・教科書 精神障害と作業療法<新版>2017 P.215～P.265	講義	セルフチェックポイントを まとめ理解を深める

	・配布資料		
13	治療過程(回復段階に応じた援助) ・教科書 精神障害と作業療法<新版>2017 P.2~P.33P.155~P.213 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントを まとめ理解を深める
14	治療構造1 ・教科書 精神障害と作業療法<新版>2017 P.57~P.83 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントを まとめ理解を深める
15	治療構造2 ・教科書 精神障害と作業療法<新版>2017 P.57~P.83 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントを まとめ理解を深める
16	定期試験		

使用テキスト	精神障害と作業療法<新版>第1章, 第2章, 第5章, 第6章: 山根寛, 三輪書店
参考書・資料 等	精神医学テキスト<改訂第4版>: 上島国利他, 南江堂 標準作業療法学 専門領域 作業療法評価学 第3版: 矢谷令子監修, 医学書院 初学者のための交流分析の基礎: 中村延江 他, 金子書房
この授業科目の前提となる主な科目	心理学、臨床心理学、人間関係、リハビリテーション概論、精神医学Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	精神疾患と障がいⅡ、精神疾患と障がいⅢ、作業療法評価学実習Ⅱ、 作業療法評価学実習Ⅲ、作業治療学実習Ⅰ、精神の評価Ⅱ、評価実習、臨床実習
成績評価の方法	1) 中間試験(40%)・定期試験(50%) 2) レポート(10%) 3) 出席状況および授業態度
その他 受講生への要望等	精神保健領域の作業療法の基礎基本となる教科です。 分からない事をわからないままにせずの一つ一つ確認しながらやっていきましょう。

授業科目名	言語聴覚療法		
実務経験講師	○	実務経験	言語聴覚士
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	言語聴覚療法の対象となる様々な障害についてそのしくみ、特徴を把握し対応を学ぶ。 聴覚障害・構音障害の症状を学ぶ。失語症に関する脳の機能を理解し症状を学びその評価、対応を知る。摂食嚥下のメカニズムを知り、嚥下障害の症状を学び対応やリハビリテーションを学ぶ。失語症以外の高次脳機能障害の症状、評価、対応を学ぶ。		
授業科目の到達目標	①言語聴覚療法の基礎が説明できる。 ②理学療法士・作業療法士国家試験に対処できる言語聴覚療法の知識がいえる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	ガイダンス、総論	講義	
2	総論2	講義	
3	聴覚障害	講義	
4	聴覚障害 2	講義	
5	構音障害	講義	
6	構音障害 2	講義	
7	失語症	講義	
8	失語症 2	講義	
9	高次脳機能障害	講義	
10	高次脳機能障害 2	講義	
11	嚥下障害	講義	
12	嚥下障害 2	講義	
13	言語発達遅滞	講義	
14	問題演習	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	絵でわかる言語障害 第2版 毛束真知子著 学研
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ, 生理学Ⅰ・Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	評価実習, 臨床実習 (理学療法学科) 理学療法症例研究, 理学療法総論 (作業療法学科) 作業療法評価学に関する全ての科目、作業療法治療学に関する全ての科目

成績評価の方法	1)定期試験 2)その他
その他 受講生への要望等	